

高知市立

# 自由民権記念館紀要

No.28

2024. 3

(令和 6)

---

○資料紹介

川井家史料について ..... 公文 豪

---

高知市立自由民権記念館

# 川井家史料について

公文 豪

## 川井家史料の出現

令和五（二〇二三）年五月末、大石宗議会議員から、「川井さんという知り合いの家に、板垣退助などからの手紙が沢山あるらしい。読める人を探しているの、読んでもらえないだろうか」という電話があった。六月二日、大石県議に手配していただき、二人で高知市愛宕町の住む川井均さん宅を訪ねた。元は喫茶店だったようで、店内に残されたテーブルの上に、川井家が保存してきた写真やハガキ・封書類が広げられていた。すべて「川井楠太郎」という人物に宛てたものである。

川井楠太郎について知る人は皆無に近いだろうが、故近藤勝氏が、戦前、土佐郡森村相川（現・土佐町相川）に「板垣退助の隠し子」と噂される老人がいたという話を「板垣退助と相撲」〔『土佐史談』一六一号〕に書いている。また、平成二十一（二〇〇九）年二月、嶺北の自由民権家・近藤猪太郎の墓の写真を拙著『史跡ガイド・土佐の自由民権』に載せるため、カメラ持参で相川へ行ったとき、私は偶然出会った地元の人から「板垣退助の隠し子の墓がある」と教えられ、興味半分、川井楠太郎の墓を写真におさめて帰ってきたことがある。

もとよりこれは根も葉もない噂話として全く信用していなかったが、このたび突然現れた板垣退助夫妻、長男銚太郎夫妻、孫の守正夫妻、板垣家執事からの八十点近いハガキと書簡などから、ほとんど身内同然、大変親密な関係にあった事実を突きつけられ、ただただ驚嘆、瞠目するばかりであった。結論から言えば、「板垣退助の隠し子」説を実証するに足る史料は何も出てこなかった。だが、川井楠太郎は一体どういう関係で板垣退助・絹子夫妻をはじめ板垣家三代の人々と濃密な人間関係を保ち、板垣家の財産管理を任されていたのか？ その最初の接点が不明なため、首をかしげるばかりである。あり得ない話ではないと思わせるような明治十年代の新聞記事が存在し

ないわけではないが、それさえもヴェールに包まれた内容で、目下のところは右の話は「永遠の謎」としてとどめおかざるを得ないのである。

## 川井楠太郎と史料の内容

川井楠太郎は、明治八（一八七五）年五月二十一日、川井勝助と関（子）の長男に生まれた。

『系図』によれば、祖先勝重は天正年中から長岡郡立川下名村に住み、土佐藩主山内氏入国後、立川下名村庄屋役、寛永六（一六二九）年二月、立川口道番役を仰せつかって給田七反御折紙を下し置かれた。子に長男勝宗、二男勝重があり、慶安三（一六五〇）年病死すると同年八月長男勝宗が跡式相続。二男勝重は土佐郡森郷相川村に住んだ。勝重の子孫が相川で代を重ね、川井勝助に及んだのである。その間、特に目立った記録はないのだが、父・勝助については次の記述がある。

「勝助 昭和四年八月八日死。八十三歳。巨万ノ資産ヲ貯蓄ス。日露戦役ニ際シテ金五拾円ヲ献納ス木杯ヲ賜ヒ、森村巡査駐在所新築ノ際ニハ米二十石ヲ寄付ス又同村土居小学校基本財産トシテ山林二町歩ヲ寄付ス相川購買組合ヘ金一千元ヲ寄付ス、妻女関子。相川字中尾上田悦蔵女・明治三十五年九月廿一日死。四十七歳」

勝助が「巨万ノ資産ヲ貯蓄」することができた経済上の背景はわからない。『戸籍』によれば、生まれたのは弘化四（一八四七）七月七日である。

母・関子の生年は不明。四十七歳で死亡した明治三十五（一九〇二）年から逆算すると、安政二（一八五五）頃（一八五六）頃の生まれになる。勝助に嫁し、入籍した年月日も現在のところわからない。

川井家史料の内容は、すべて板垣家の家事に関わるものである。個人所有であるため、原本閲覧には制約がある。このため、川井均氏の快諾を得て、本稿ではほぼ全ての史料を翻刻して公開することにした。

まず、ハガキ・封書類の内容を整理すれば、板垣退助及び夫妻連名のハガキなど八点、板垣絹子夫人からのもの二十六点、長男銚太郎・節子夫妻からのもの十二点、孫守正・外子夫妻からのもの十点、孫正貫からのもの三点、

板垣家執事横山友義からのもの十点、執事関口武次郎からのもの五点、竹内明太郎からのもの二点である。

本稿では、右の総数七十六点を時系列で並べ、各史料に整理番号を付した。ハガキ・封書には月日だけの記載や判読不能の消印が多く、差出人不明のものが多数にのぼった。このため、通信の内容、切手、住所から差出人を推定せざるを得なかったが、各人の転居による住所変更が意外に役立ち、ほぼ全ての差出人を推定することができた。このような方法で得た推定年月日については、各史料「消印」の項に「(推定・○○年○月○日)」と書してある。

以下、特に興味深い史料について説明しておこう。

まず第一に、これまで知られなかった板垣家の財産管理については、執事・横山友義からの書簡に詳しい。

明治四十三(一九一〇)年十一月二十四日付横山書簡(整理番号3)により、川井楠太郎が板垣が所有する「本山牧場」と称する土地の「管理人」を委託された経緯がわかる。場所は、現在の長岡郡本山町木能津から大豊町梅ノ本、松生にかけての尾根筋で、七十五畝ほどの山林である。官林を「牧場」用地として購入したとも伝えられ、牧場経営計画が本格化したのは板垣最晩年になってからであった。大正四(一九一五)年四月二十三日書簡(整理番号6)には、「牧場事業設計に関する費用如何程に有之候哉概算にて宜敷候間至急御申越被下度主人より右御頼申候様被申付候」云々とあり、この頃から牧場事業計画が動き始めていたことがわかる。しかし、牧場には不適地であることが判明し、計画は頓挫して終わったようだ。大正八(一九一九)年に板垣が他界したことが影響しているのかも知れない。

また川井は、大正五(一九一六)年四月八日、土佐郡潮江村字竹島(現高知市竹島)の板垣所有地の「小作契約及び番人雇用解除」の件で板垣の代理人を委任されている(整理番号10)。この土地は、板垣没後に裁判沙汰になった係争地で、昭和三(一九二八)年七月十二日付『大阪朝日新聞・徳島高知版』に、以前からの番人中平某を相手取った板垣の長女・片岡兵による墓地、田畑、山林等所有地取り戻し訴訟の控訴公判が大阪控訴院で開かれた記事が載っている。兵は一番で勝訴したが、被告中平某が永代借用説を主張して控訴したのである。記事中、証人の証言に「中平は数十年前板垣伯より右土地の番人を命ぜられたものであるが、その後、中平は山林の木を盗伐したりするので伯の激怒をかひ

番人はやめさせられた」とある。これが本史料、大正五年に川井楠太郎が代理人として委任された「番人雇用解除」の用務である。

このように川井は、本山牧場の管理、同用地にかかる町税代納、板垣家所有の「小川山」売却(整理番号6、7)、墓地清掃(整理番号48)など板垣家の財産管理に携わっていた。

次に、三代にわたる板垣家との親密な関係についてみてみよう。

板垣退助と妻絹子、長男銚太郎夫妻、孫守正夫妻からは、年賀状のほか、柿や栗をはじめ季節の贈り物への礼状が多い。中には「亡夫大好物の潮江株御賜恵被成下難有存候早速本日の仏前供へ候」と、板垣生前の好物・潮江蕪を送ったことへの礼状もある(整理番号35)。潮江蕪は高知市潮江の地域野菜で、戦後一時絶滅していたが、牧野富太郎の指示で種子が保存されていたことがわかり、近年篤農家の尽力で復活し、伝統野菜「潮江菜」の名称で有名になっている。

板垣・川井両家の冠婚葬祭についても、それぞれ祝文・弔文のやりとりが懇切である。

大正十一(一九二二)年には、絹子から女中雇い入れを依頼されて世話をするなど板垣家の信頼の厚さがわかる(整理番号30、31、32、33、34)。なお、女中到着を知らせた執事・関口武次郎の書簡(整理番号31)に「当地平博も出品揃い」とある。これは第一次世界大戦後の平和を記念し、同年上野公園でひらかれた平和記念東京博覧会を指す。

昭和三(一九二八)年、板垣銚太郎からの年賀状(整理番号62)の添え書きに、「東京江きてちようだいね私もあなたをすきですよ」と率直な思いが書かれているのは驚かされる。この親密ぶりは何を意味するのであろうか。

大正十二(一九二三)年十二月五日、高知城追手門内の(旧)板垣退助銅像除幕式が行われた。孫の大学生・守正が除幕し、式典では追手門内を埋めた一万の参会者を前に遺族を代表して草稿なしの謝辞を述べた。(整理番号42)の守正書簡は、除幕式を終え、京都を経て帰京したことの報告、高知滞在中の展覧案内、饗応、饞別などへの礼状である。このほかに、『板垣退助全集』編輯のための資料照会(整理番号53)など守正からの興味深い手紙がある。

板垣家の執事・関口武次郎の大正十五（一九二六）年五月三日付け品物惠贈への礼状（ハガキ）に「小川夫人逝去せられ取込居候」とあるのは、板垣の三女・婉逝去を知らせるものである（整理番号 55）。婉は愛妾・小清との間に生まれた娘で、写真家・小川一真と再婚していた。

さて、板垣絹子は昭和十三（一九三八）年四月十三日に逝去した（整理番号 74、75、76）。享年七十九。同月十五日の『高知新聞』に「板垣伯未亡人昨夜逝く」との小さな記事が載っている。それによると、絹子は大正八（一九一九）年、板垣逝去の年に脳溢血で倒れた。この年一月には末子・六一をスペイン風邪で喪い（整理番号 20）、七月十六日には夫もスペイン風邪がもとで肺炎を併発して逝去した。心労が重なったので発病だったのではないだろうか。その後、殆んど快癒の状態だったが、昭和五（一九三〇）年再発し、爾来八年間を病床で送っていたという。同年三月二十六日付の板垣節子の手紙（整理番号 67）に「折角御上京なさいましたのに折あしく病人の為に何のおかまも出来ませず」云々とあるのは、絹子の再発病臥のことである。同七年三月二十三日付の絹子名ハガキは代筆で、「當家御後室には一昨年より病床となり目下も御全快之由も無く御座候へ共格別の御変り之無く候」と晩年の状態を伝えている（整理番号 71）。

その他、明治末年から大正、昭和前期にかけての知られざる板垣家の家事を伝える史料がこれほどの量とまって出現したことは一驚に値するものである。

最後に、写真について述べておこう。本稿では、下段に板垣退助晩年の初出写真二点を掲載した。

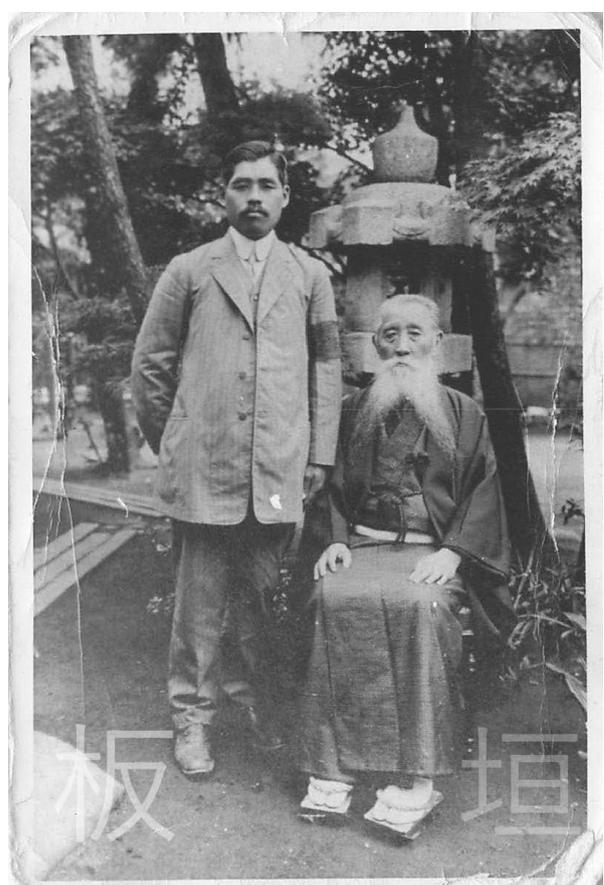
一点は、板垣退助と川井楠太郎が並んだ写真で、裏に「大正三年撮影 麻布板垣邸 板垣退助伯 川井楠太郎」と記載されている。川井楠太郎三十九歳頃の写真である。

もう一点は、大礼服姿の板垣退助・絹子夫人が乳児を挟んで撮った写真である。撮影年月日は不明。同じ場所と同じ服を着用した夫妻の既知の写真があるが、乳児を挟んだ写真は初出である。子どもの名前はわからない。

本稿では紹介しないが、板垣退助と殆んど同じ長い髭をはやした晩年の川井楠太郎の写真が二点、および相川の川井家旧宅の写真一点も残っている。



（左）板垣退助 （中）不明 （右）板垣絹子



（左）川井楠太郎 （右）板垣退助

【史料紹介・川井家史料】

整理番号 1

(ハガキ表)

消印 (推定・明治年不明 1月3日)

高知県土佐郡森村

川井楠太郎殿

(ハガキ裏)

恭賀新年

一月元旦

伯爵 板垣退助

整理番号 2

(封筒表)

消印 (推定・明治 43年) 5月2日

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎殿

(封筒裏)

東京芝愛宕町板垣邸

横山友義

(本文)

時下御清榮奉賀候肺病特効薬ニ関し主人への御書東相談早速主人より石原知事ニ対し依頼状被呈出候ニ付御了知相成たし倍御申越ニ依れば奇妙之効験有之候趣当家に今病人有之訳には無御座候得共折を以斯病の者ニ試み度候間御序之節少々配分被成下候事被相叶申間布敷  
依命御通知旁右御相談 早々拝具

五月二日

川井楠太郎殿

横山友義

整理番号 3

(封筒表)

消印 (推定・明治 43年) 11月24日

高知県土佐郡森郷相川村

川井楠太郎殿

至急親展

(封筒裏)

三銭 東本山村役場

三銭 本山町役場

領収調送附料

東京市芝区愛宕町二丁目壹番地板垣邸

横山友義

(本文)

拝啓時下寒冷之候に候處益御健勝奉賀候陳ハ牧場之件に付不相替御配慮被下候趣奉感謝候扱今回別紙之通村役場 方申来り候得共遠路之事故何共難致候間誠に御手数相掛け御氣之毒に候得共他に管理人依頼可致向も無之候間主人方貴下御依頼致而相願可申との事に御座候御迷惑とハ奉存候得共何卒宜敷御執計被下度右御依頼迄 勿々拝具  
十一月廿四日

横山友義

川井楠太郎殿

猶以御納税被下其上口課ハ御計算御送附被下候ハ税金御廻送可仕候間御承知被下度候

整理番号 4

(封筒なし・整理人筆)

大正 2年 11月 27日

税立替納付依頼

本山牧場配慮感謝

(本文)

拝啓晩秋之候益御健勝奉賀候陳ハ其後本山牧場之件に付不一方御配慮被下難有奉謝候扱例之大正二年第二期畑租別紙之通納税書参り候誠に御繁忙中願上兼候得共御上納被下度右御依頼迄申上度 草々拝具  
十一月廿七日

板垣邸

川井楠太郎様

横山友義

整理番号5

(結婚式案内状・封筒なし)

拝啓愈御清穆奉恭賀候今般千頭清臣氏夫妻ノ媒妁ヲ以テ小山鞆繪ト退助五女良子ト結婚仕候ニ付御披露申上度候間来ル十五日午後五時京橋区采女町精養軒へ御光来被成下度此段御案内申上候 敬具  
大正四年一月九日

鞆繪母 小山スイ子  
伯 爵 板垣 退助  
同 絹子  
追テ来ル十三日迄ニ午御手数御来否御一方被下度候

整理番号6

(封筒なし・整理人筆)

大正四年四月廿三日 横山友義

小川山売却感謝、代金問合

牧場費用概算問合

本山町税代納依頼

(本文)

尚々以て左に相願候概算書極々至急を要し候間大々の急速に御送附被下度偏に奉願候也

拝啓仕候時候不順に候處益御健勝奉賀候其後時々御起居可相伺筈之處種々取紛御無音に打過候段何共申訳無之候陳ハ牧場之件に付兩度御申越に相成候處小生儀病氣にて療養罷在不恁麼御無音仕候段奉謝候扱御配慮により小川山売却之儀も大に相達候趣就てテ売却代金ハ如何計に相成候哉又牧場事業設計に關する費用如何程に有之候哉概算にて宜敷候間至急御申越被下度主人より右御頼申上候様被申付候間先ハ不取敢右御頼上候 勿々拝具  
四月廿三日

横山友義

川井楠太郎様

(別紙)

尚以別紙之通本山村役場より申来り候間毎々御手数相掛不相濟儀に候得共御代納被下度奉願候也

整理番号7

(封筒)(推定・大正4年)

10月26日

高知県土佐郡江ノ口町

川井楠太郎様

(封筒裏)

十月廿四日

東京市芝区芝公園七十八 横山友義

(本文)

拝啓秋冷之候益御健勝奉賀候陳ハ御地小川山之件に付種々御配慮相蒙り奉深謝候扱例之地租割別紙之通申来り候間御手数なから何分宜敷奉願先ハ取紛中右迄勿々

十月廿六日

拝具

横山友義

川井楠太郎様

整理番号8

(ハガキ表)

消印 5年1月1日

高知市外江ノ口村町江ノ口

川井楠太郎殿

(ハガキ裏)

恭賀新年

大正五年一月一日

伯爵 板垣退助

東京市芝公園

整理番号9

(ハガキ表)

消印 5年1月1日

高知県土佐郡森村

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

謹賀新年

大正五年一月元旦

東京市麻布区筈町百四十二番地

竹内明太郎

整理番号10

委任状

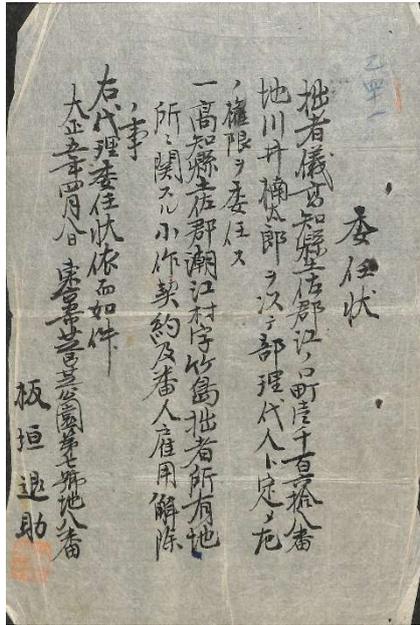
拙者儀高知県土佐郡江ノ口壹千六百六拾八番地川井楠太郎ヲ以テ部理代人ト定メ左ノ権限ヲ委任ス

一高知県土佐郡潮江村字竹島拙者所有地所ニ関スル小作契約及番人雇用解除ノ事

右代理委任状依而如件

大正五年四月八日 東京市芝区芝公園第七號地八番

板垣退助 印



整理番号11

(封筒表)

消印 (推定・大正) 5年5月18日

高知県土佐郡江ノ口町

川井楠太郎様

至急必親展

(封筒裏)

東京市芝区芝公園七ノ八板垣邸

横山友義

(本文)

拜啓暖氣之候に候處益御健勝奉賀候陳ハ過日御地女中之儀に付折角御申越被下候處其節ハ一時断申上置處此頃当家居掛り之女中小間遣病氣にて□□致候様次第に付予て貴家より御申越之女中何分御世話被下度就てハ給料ハ一ヶ月三円にて本人上京之旅費ハ何円計入用に有之候哉誠に御手数にハ候得とも何卒御交渉之上本人承諾致候ハ電報にて御申越被下度願上候又竹嶋借入金半々年分利子本月二十日に支払之契約に候處都合御坐候て本月末日迄に送金可致就てハ本日電報で傍士君へ相願候間何分にも宜敷奉願候

将又本山牧場之税金別紙之通り督促致来候間毎度宜敷御取計被下度奉願候先ハ右迄御願申上度 草々拝具

五月十八日

横山友義

川井楠太郎様

尚以女中ハ予て当家奥さんより御話申上置候通り小間遣にて素より当家ハ頗る世話敷候に付猶ホ本人へ御申聞置被下度奉願候也

整理番号12

(封筒表)

消印 (推定・大正) 年8月3日

高知市外江ノ口町

川井楠太郎様  
(封筒裏)

東京芝区芝公園板垣邸

横山友義

(本文)

拝復炎暑之候愈々御清榮奉賀候

陳者竹嶋之件につき種々御配慮相掛け八月五日迄には確定致候趣承知致し御礼申上候傍士氏へも宜敷申上被下度候不調の原因には延引等之事も書翰により承知仕候就て御当家に於ても非常に急ぎ居候ハハ八月五日迄にはあてにして相待ち居り候ハハ至急御運ばし被下度御願申上候

八月二日

横山友義

川井楠太郎様

御依頼致候女中も急ぎ居り候て竹嶋山の金子の内にて八円御渡し被下早速上京する様御取斗被下度御願申上候

整理番号 13

(名刺)

川井楠太郎氏乞御引見

板垣退助

奥田義人殿

整理番号 14

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 6年1月1日  
高知県土佐郡森村

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

恭賀新年

一月元旦

東京市麻布区筈町百四十二番地

竹内明太郎

整理番号 15

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 6年1月6日

高知市外江ノ口村二六八

川井楠太郎殿

(ハガキ裏)

恭賀新年

一月元旦

伯爵 板垣退助

東京市芝公園

整理番号 16

(封筒表)

消印 (推定・大正) 6年6月12日

高知県高知市江ノ口町愛宕町通

川井楠太郎様 親展

(封筒裏)

東京市芝区愛宕町三ノ一

横山友義

(本文)

拝啓梅雨候益御健勝奉賀候次に小生病気も少ハ快方に相移り候得共疲労甚敷暫之處外出難出来候間過日も申上候竹嶋之利子来る十五日迄前陳之通に付御送金仕候事難相整候間誠に勝手ケ間敷候得共何卒来月十五日頃迄延期御相談被下度若し先方に於て来月十五日迄延期不承諾に候ハハ本月三十日迄延期致呉候様何分にも御交渉被下度偏に奉希候先ハ再応御願申上度勿々  
拝具

六月十二日

川井楠太郎様

横山友義

整理番号 17

(封筒表)

消印 (推定・大正6年) 11月5日

高知県高知市江ノ口待ち中ノ橋通

川井楠太郎様 親展

(封筒裏)

東京市芝区芝公園七ノ八

横山友義

(本文)

拝啓陳ハ兼々御配慮被下候竹嶋一件も本月期限有之候處是非取留め無き申度今回本山久壽頼氏に相談致同氏之名義に騰記致置度即ち元利金ハ本山氏之代理人として御地高見住岡本静氏為持て万般の手続等代理為致セシムル事に相成候間此段御承知被下度奉願候貴下ハ本山の方へ御旅行被成候哉と存候間委細之儀ハ揚田氏へ依頼致候間是又御承知被下度先ハ右迄勿々 拝具

十一月五日

横山友義

川井楠太郎様

整理番号 18

(ハガキ表)

消印 7年1月6日

高知市江ノ口町

(ハガキ裏)

恭賀新年

大正七年一月元旦

伯爵 板垣退助

東京市芝公園

整理番号 19

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 8年1月1日

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎様

東京市内大森区入新井町六ノ四二〇

板垣銓太郎

(ハガキ裏)

謹賀新年

併謝平素之疎遠

尚祈貴家之幸福

一月一日

整理番号 20

(封筒表)

消印 8年1月〇日

高知市江ノ口村一一六八

川井楠太郎殿

(封筒裏)

高知局消印 8年1月27日

東京芝公園

伯爵 板垣退助

(本文)

拝啓先般三男六一死去候際は甚深なる御同情を以て早速御吊意を忝ふし御芳志厚く御禮申上候茲に忌明に際し不取敢以書中御挨拶迄如此御座候 敬具

大正八年一月廿四日

伯爵 板垣退助

同 絹子

整理番号 21

(板垣退助法要案内状・封筒なし)

拝啓板垣退助薨去の節は御懇篤なる御弔慰を辱うし且つ御鄭重なる御供物を賜はり御厚情難有奉謝候来る十月廿三日は百ヶ日に相當り候に付同日午前正十一時芝区愛宕町青松寺に於て法要相営み度候御臨席被成下候は、光栄の至りに奉存候先は右御禮旁御案内申上度如此に御座候 敬具

大正八年九月廿八日

葬儀委員一同

友人総代 野田 卯太郎

原 敬

親族 一同

相統人 板垣 守正

川井楠太郎殿

追て御手数来る十月十五日迄に御来否御一報被下度希上候尚當日此状御持参奉願候

整理番号 22

(ハガキ表)

消印 9年1月1日

高知市江ノ口町一六八

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

恭賀新年

大正九年一月元旦

芝区濱松町一ノ一五

関口武次郎

大正九年一月五日

(転居先) 東京府荏原郡品川町北品川一本木三百四十六番地

(電話高輪二〇八〇番)

板垣絹子

整理番号 24

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 10年1月1日

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

謹而新年之賀詞申上候

一月元旦

板垣銈太郎

同 節子

整理番号 25

(ハガキ表)

消印 10年1月□日

高知市江ノ口町中ノ橋通り

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

謹賀新年

大正十年一月元旦

芝区通新町一四

板垣絹子

整理番号 23

(ハガキ表)

消印 判読不能

高知市江ノ口町

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

拜啓仕候寒威日に増して嚴敷候處御一統様愈御健勝に被為涉候御儀と奉恐悦候 陳者私儀此度左記へ住居を移転仕候に就ては不相変御厚誼を賜はり候様奉希上候尚ほ甚だ乍勝手服喪中に候得者年末並に年始御礼の儀は遠慮仕候に付併て御承知被成下度候  
先は右御挨拶申上度如此御座候 拜具

整理番号 26

(封筒表)

消印 10年7月5日

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

(封筒裏)

東京市芝区通新町十四番地

板垣絹子

敬具

八月四日

板垣銚太郎

守正

(本文)

閉経来る七月十五日は亡夫板垣退助の第三回逮夜に相當候間特に永平寺管長北野元峰禪師を雇請致し於自宅仏事相営み申候

就ては當日御焼香被来下候は、誠に本懐之至りに有之候右謹んで御案内申上候

追而極暑の砌りに付御焼香時間は午后五時より同六時半までと相定め候猶記念として廉品呈上致し候間御受納被下度願ひ候

大正十年七月 日

板垣絹子

川井楠太郎殿

東京市芝区通新町十四 八月二日

板垣絹子

整理番号 27

(封筒表)

消印 (推定・大正) 10年8月4日

高知市江ノ口町二六八

川井楠太郎様

(同裏)

岡山市山下石山十ノ五

板垣銚太郎

整理番号 29

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年1月1日

高知市外江ノ口町百軒町四角北

川井楠太郎様

岡山市方京町一四八

板垣銚太郎

全せつ子

拝啓

過日御飛報に接して御長女糸喜様御逝去の趣承り事のあまりに意外なるに驚愕仕候愛児を先に立たせ給へる貴下の御胸中察するも涙に候

今更ながら人生遭離の儂さを痛感致され候此上は御身体大切になされ御供養專一に存候過般早刻御吊問申上くべきの處折柄愚息旅行中にて延引今日

に及び候儀缺礼の程悪しからず御寛容願上候 遅捲ながら書状を借りて哀悼の情を申述候

(ハガキ裏)

謹賀新禧

平素の疎情を謝し  
貴家能萬福越祈る

一月一日

整理番号 30

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年3月4日

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

東京市芝区通森町十四

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝啓先日御尋ね被下且つ結構の御土産被下難有御礼申上候扱て女中之事□  
□御心配被下大坂より御はがき難有存候然るに当方にて□に入申候間御地  
にての御詮議は御見合せ被下度先ハ右御礼旁右迄申上候 早々

三月四日

整理番号 31

(封筒表)

消印 (推定・大正) 11年4月3日

高知市江ノ口町一一六八

川井楠太郎様

(封筒裏)

東京芝区通新町十四板垣邸

関口武次郎

(本文)

拝啓度々御芳書被下難有存候大兄には不相変御勇健大慶之至に奉存候扱て  
今回ハ女中之儀に付不一方御高配相蒙り御陰様にて今朝到着致安心仕候本  
日一日は休息為致明日より立働かせ可申洵によさそうの人物にて御後室様  
大に嬉ばれ申候猶ほ好物のをしな御恵与被下厚く御禮申上候早速漬物とし

て晩酌の膳へ上せ可申候当地平博も出品揃い景気付候間見物旁御出京如  
何に御坐候哉御待ち申上候御後室より呉々も御禮申上候間左様御承知被下  
度先は不取敢右御礼迄 早々拝具  
四月二日

四月二日

川井大兄 玉案下

整理番号 32

(封筒表)

消印 (推定・大正) □□4月□□

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

(封筒裏)

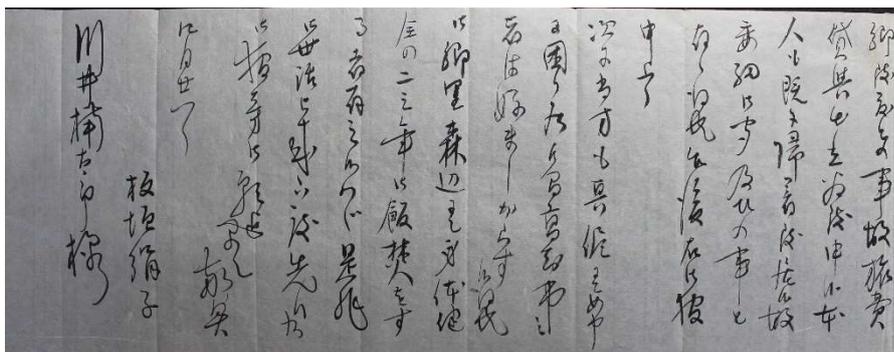
拝啓過日は女中御世話被下難有存候然る  
に同人は着京の翌朝より病氣にて足痛之  
趣に付医師を呼ひ療養為致候得共次第に  
痛み烈しく相成先般御地にて二ヶ月余入  
院治療せし時と同様の容体故万一重患と  
相成帰郷も出来さる様成候てはと心配致  
候間帰郷致度との事故旅費貸与出立為致  
申候本人も既に帰着致居候故委細御聞及  
ひの事と存候得共乍後右御披申上候  
次に当方も其俣にて女中に困り居候間高  
知市之者は好ましからず候得共御郷里森  
辺にて身体健全の二三年御飯焚をする者  
有之候ハ、是非御世話被成下度先ハ右御  
披旁御願迄 早々敬具

四月廿一日

(本文)

東京芝区通新町

板垣絹子



武次郎

四月廿一日

板垣絹子

川井楠太郎様

整理番号 33

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年5月3日

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

東京市芝区通新町十四

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝啓先日願上候通り女中御飯炊に困り居候就ては高知市の者にては永くしんほう致候者有之間敷と存候に付郷里森辺の者にて二三年勤続致候者無之候哉実は福岡子爵家にも御飯炊き一名入用之趣に付連れ有之候ハ、出京致候者も或は有之候事かとも存候間御含にて兩名御坐候ハ、至極都合に御坐候何卒御世話被下度乍御手数御心当りの有無鳥渡御披煩し度願上候 敬具

五月三日

整理番号 34

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年5月14日

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

東京市芝区通新町十四

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝啓追々暑さに相向候処御障り無之大慶に奉存候扱て先日御願申上候女中は御心当無之候哉当方も大に困り居候間乍御手数数往信にて御模様被成下度奉願上候 早々

五月十四日

整理番号 35

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年6月16日

高知県高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

六月十五日

芝通新町十四

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝啓暑さ烈しく相成候処御変り無之大慶に奉存候扱而此度ハ亡夫大好物の潮江株御賜恵被成下難有存候早速本日のお前供へ候不取敢右御礼申上候次に次第に暑さも相成候間当分御送り御品ハ扣へ被下度候先ハ御礼旁右迄早々 拝具

整理番号 36

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年8月9日

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

東京市馬通新町十四

板垣

(ハガキ裏)

拝啓先日女中之事御願申上置候処当方にて一人相知之者有之由申来候間御願を取消度旨申上候然るに当方は手違ひと相成候間御地にて十八九より廿四五迄の者にて好く働き二三年勤める者御坐候ハ、御口話被下度旅費は当方にて出費可仕博覧会は見せ可申候得共見物済んだからとて直に帰る者にては困り候間二、三年は勤続様に約束被下度先ハ右御願迄

整理番号 37

(ハガキ裏)

消印 (推定・大正) □年 12月 □

高知市江ノ口町江ノ口

川井楠太郎様

芝区通新町十四

板垣絹子

(ハガキ裏)

此度守正が御地向ふ筈に相成り申候間粗品相托し申候へば何卒御笑納下

され度候

先は右御案内のみ 早々

十二月一日

整理番号 38

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) □年 1月 1日

高知県高知市江ノ口村

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

恭賀新年

一月元旦

芝区三田通新町一四

板垣絹子

整理番号 39

(ハガキ表)

消印 (判読不能) (推定・大正年不明 10月 29日)

高知市江ノ口町 □ □

川井楠太郎殿

芝区通森町一四

板垣家

(ハガキ裏)

先□は栗の実を御送付被下慥かに受取難有奉存候不取敢御礼旁申上候

十月二十九日

整理番号 40

(ハガキ表)

消印 12年 1月 1日

高知市江ノ口町

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

恭賀新年

大正十二年一月一日

東京市芝区通新町十四番地

板垣絹子

整理番号 41

(ハガキ表)

消印 判読不能 (推定・大正 12年 11月 25日)

高知市通五丁目

川井楠太郎

東京芝通新町十四

板垣絹子

(ハガキ裏)

此度の震災に際しては御見舞を辱ふし有難く厚く御礼申上候御送附下され候金子も正に落手致し候間何卒左様御承知下され度候当方も御陰様にて一同無事に御座候が家屋には多少の破損有之候先は右御礼旁御通知まで草々

十一月廿五日

整理番号 42

(封筒表)

消印 (推定・大正) □年 12月 23日

高知市通町五丁目

川井楠太郎様

(封筒裏)

東京市外北豊島郡長崎村一三〇〇

板垣守正

(本文)

拝啓

嚴寒相加申候折柄御一同様御清榮奉賀候小生は途中京都に立寄り輕微の所勞の爲め意外に日を移し十七日無事帰京仕候早刻御一報申上くべき乍ら旅疲尚全からず一には事故に取り紛れ延引の缺礼御寛容願上候 小生御地滞在中は御多忙中を御配慮相掛け殊に展墓に際しては東西に御奔走の勞を煩はし御陰様にて今般の帰郷の第二の使命を完全に相果たすを得申候尚々送別の御饗応並に御餞別の御贈品に預かり又出発の砌は態々遠路御見送を煩はし候儀重ての御厚誼謝礼に御座候 就中御土産の品々は聖坂の祖母方にも悦びを分ち候が一同非常に喜申候拝借のトランクは慥かに小生方に保管致居候間御入用の節は御一報願上候失(？)は遅れ乍ら歸來御一方旁々御挨拶申述度末筆乍ら御病後の御婦人並に御馴染の川井第二世君に宜敷御風声願上候

十二月廿日

早々

川井楠太郎様

板垣守正

整理番号 43

(封筒なし) (推定・大正 12年 12月カ)

(本文)

其後は御無沙汰に打過ぎ居り候處御寒さきびしき居りから御家内さま御機嫌宜しく何より御めで度存じ候扱て此度守正帰国のみぎり各種々御世話さ

まに相成候上に数々の御土産物被下ありがたく一同喜んで頂戴いたし居り候厚く御礼申上候直ニ御礼状差出す可きの處何分に取紛れ候□□御延引に相成候ぶんあしからず思召被下度候先ハ右御礼込申上候  
かしく

節子

川井楠太郎様

整理番号 44

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 13年 7月 17日

高知市通町五丁目

川井楠太郎様

東京市外下渋谷広尾八八

板垣絹子

(ハガキ裏)

拜啓酷暑の砌益々御清榮奉賀候扱て昨日結構なる名産沢山に御送り下され有難く拝受早速御供へ申候間何卒左様御承知下され度候

先は右御礼のみ不敢取 早々

七月十七日

整理番号 45

(ハガキ表)

消印 14年 2月 6日

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎

東京下渋谷広尾八八

板垣絹子

二月六日

(ハガキ裏)

拝啓

皆様には其後御変りも有りませんで結構で御座います私方も無事で暮して居ります御安心下され度今日は又結構な柿を沢山御恵送下され有難く厚く

御禮申上ます

先は右御禮迄時節柄御自愛專一に願上候

整理番号 46

(封筒表)

消印 □年□月□日(推定・大正 14年) 7月7日

高知市北新町四丁目六

川井楠太郎様

(封筒裏)

府下下渋谷廣尾八八

板垣絹子

(本文)

拜啓来る十六日亡夫退助七回忌に相當致候に付粗品拝呈致候間御受納被下  
度候

七月七日

川井楠太郎様

板垣絹子

敬具

整理番号 47

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 14年8月18日

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎様

東京府下北豊嶋郡長崎村並木千三〇〇

板垣節子

(ハガキ裏)

其後は御無沙汰いたしました日々御あつきさびしく御座います。が皆さま御  
変りもありませんか。私方にも一同ぶじに過しております。から何卒御心  
思。下さいませ。粗末な品ですが。今日御送り申しました。から何卒御受取下さい  
ませ。なほ、暑さの折から。皆さま御いといなさいませ。先ハ右まで  
乍末筆御家内さまへもよろしく御伝へ下さいませ。 早々不

整理番号 48

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 11年9月3日

高知市北新町四丁目四ノ六

川井楠太郎様

府下北豊嶋郡長崎村一三〇〇

板垣節子

九月二日

(ハガキ裏)

御はがき拝見いたしました。大変さびしい暑さですが。皆さま御変りもない事  
と存じます。毎度ながら御墓の御掃除御苦労さまに存じます。厚く御礼申上候  
今後とも何卒よろしく御願申上ます  
先ハ右御礼まで 早々不  
時下□□□□御大切になされませ

整理番号 49

(ハガキ表)

消印 判読不能

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎様

東京府下北豊嶋郡長崎村並木一三〇〇

板垣節子

(ハガキ裏)

拝啓

急に御寒く相成候處。皆さま御変りもこれなく候。や次に。当方一同無事に御座  
候。御安心くだされ度候。さて。先日は。何よりの好物。沢山に御送り被下有難く御  
礼申上候。家事に取紛れ候て。遂御礼御延引の。だん御ゆるし。被下度候。先ハお  
れながら御礼まで 早々不

整理番号 50

(ハガキ表)

消印 判読不能(推定・大正年不明2月9日)

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

日々御寒さつよく候處美奈さま御起源よろしく何よりと存じます次に私方一同ぶじに御座候何分御安心下さいませ又只今に何よりの好物沢山御送り下されありがたく厚く御礼申江候

先ハ右取あへず御礼まで

なほく御寒さの折りから皆さま御身御大切になされ度候

貳月九日

北豊嶋郡長崎村並木

板垣節子

整理番号 51

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 14年10月18日

高知市北新町四丁目六

川井楠太郎様

東京下渋谷広尾八八

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝啓

先日は見事な栗を沢山御恵送被下有難く拝受致しました 早速御霊前に御供へ致しました地下に眠ってゐらしやる伯も嘸(さぞ)かし御満足の事と嬉しく思ひます 先は右乱筆乍ら御禮迄

草々

整理番号 52

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 15年1月1日

高知市北森町四ノ六

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

謹賀新年

大正十五年元旦

東京市外大久保百人町三十五

関口武次郎

整理番号 53

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 1年12月31日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

寒中御見舞を兼ね近況お知らせ申上げます。御声援の裡に編輯進捗しました『板垣退助全集』は、御陰様で略々其の重要な資料を網羅し得て第一次の編輯締切を終りました。原稿総枚数実に四千枚に近からんとしてをります。遠からず責任ある出版方法に仍つて盛大に刊行を実現致します。就きましては更らに完美を期する為め倍旧の努力を傾けて聚集漏れの資料を索ねて第二次の編輯に入りましたから御気付きの散逸資料も御座いますならば左記宛に御教示を煩はしたふ御座います。重ねて御後援を願上げます。

一月一日 東京市外大久保百人町一八一(電四谷、一二七二番呼出)

板垣退助全集編輯所

板垣守正

同 外子

(著書) | 戯曲集 自由黨異變 (寶文館発行)

整理番号 54

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 15年4月25日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

お送り下さいました小包、今朝着きました。結構な御国産を有難う御座いました。早速一同で風味いたさうと存じてをります。また折々御国の御便りなど御漏らし下さいませ。御一統様に良しく御傳声を。先は取敢ず御礼まで

四月廿五日

東京市外高円寺八一

板垣守正

整理番号 55

(ハガキ表)

消印 (推定・大正) 15年5月3日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

東京市外大久保百人町

関口武次郎

(ハガキ裏)

拜啓先達御滞京中は失禮仕候

扱て今度結構なる御品御恵與被成下難有存候早速御禮可申筈之處小川夫人逝去せられ取込居候為め遷延今日に及申譯無之不悪御寛恕被下度先ハ右御禮込申上候 敬具

五月二日

整理番号 56

(封筒表)

消印 15年7月15日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

(同裏)

府下杉並町高円寺

南窓園

板垣守正

(本文)

『板垣退助全集』編輯の為に。

謹啓

夏季相迫る折柄御清栄お悦び申上げます。偕て今般小生の手に仍つて亡祖父退助一生の論著、建白書、意見書、演説稿、書簡、檄文、祝吊辞、其他の述作文章を輯めて『板垣退助全集』を編輯の上広く江湖に刊行致したいと存じ既に其の準備に着手致しましたが故人と御交遊深かりし貴下の御援助を得て漏れなく資料を収め故人の全面影を偲ふべき完全な全集を世に送り出したいが小生の念願で御座います。

就きましては上述の各項目に該当すべき故人の述作遺稿並びに故人の各種の写真肖像の類いを始め此の全集に収録するに相応はしき資料が御手許若くは御旧友知事の間に残存致して居りますれば左記宛に御照会願ひたいと存じます。拝借の上は責任を以て早速移写致して御返納申上げますから公私御繁忙中恐縮乍ら御厚意を御頒ち下さいますれば幸甚に存じます先は右故人生前の御旧誼に甘へ御願まで。 敬白

大正十五年七月

東京府杉並町高円寺八百拾壹番地

板垣守正方

『板垣退助全集』編輯所

編輯者 板垣守正  
編輯手 旭助夫

川井楠太郎殿

整理番号 57

(ハガキ表)

消印 15年12月1日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

お寒くなりましたが御変わり御座いませんか。偕て私事本日麻布歩兵一聯隊第中隊 班一年志願兵として入営致しました。入営前に一度拝眉御訣れ申上

げたいと存じ乍ら繁忙の余り缺礼致しましたから書状を藉りて御挨拶申上げます。尚留守宅は左記に移しましたから併せて御一報申上げます。御自愛を祈ります。

大正十五年十二月一日

板垣守正

留守宅 東京市外大久保百人町一八一

【電話四谷一二七二番呼出】

整理番号 58

(ハガキ表)

消印 (推定・昭和) 2年2月16日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

東京市外大久保百人町一八一

板垣守正

(ハガキ裏)

前略御免下さい。本日はまた結構な乾柿沢山御恵送下さいまして有難ふ御座いました。早速一同にて賞味致し土佐の秋に逢ひし思ひ樂しました。毎々の御厚情深謝致します。南国も尚お寒い折柄と存じます。折角御一同御自重下さいませ。先は取急ぎ御礼の寸信迄

二月十六日

整理番号 59

(封筒表)

消印 (推定・昭和) 2年7月14日

高知県土佐群森村相川

川井楠太郎様

(封筒裏)

東京市麻布区通新町一ノ十五

板垣絹子

七月十一日

(本文)

拜啓 日増酷暑厳しき折柄御家内皆様には御健勝何より存じ上ます

此の度は御鄭重なる御手紙並に結構なる御品御送附下され重ねの御厚志有りがたく深く御礼申上ます

久しき間御無沙汰に打過ぎ誠に申分之なく御詫びいたします。こちらもおかげ様で変わりなく暮し居ります故他事ながら御休心下され度おくれせながら右御礼申上ます

末筆ながら皆様の御健康を御祈りいたします。かしこ

板垣絹子代筆

川井楠太郎様

整理番号 60

(封筒表)

消印 (推定・昭和) 2年8月2日

高知市北新町四丁目六

川井楠太郎様御直披

(封筒裏)

東京市麻布区笄町一八〇 八月二日

板垣絹子

(本文)

其後は定めし御淋しく御暮の事と存じます本日小為替にて金参円御送付申上ますから誠に軽少に御座いますがどふか御仏前へ何か御供物をなし被下ます様御頼みます先は取あえず右まで 匆匆

八月二日

川井楠太郎様

板垣絹子

整理番号 61

(ハガキ表)

消印 判読不能(推定・昭和年不明) 8月8日

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎様

麻布区筭町一八〇

板垣

昭和五年一月元旦

東京市牛込区若松町一〇五

板垣守正  
同 外子

八月八日

(ハガキ裏)

拝啓御暑さきびしき折から皆さま御無事何よりと存じ候次に当方一同ぶし御休心下され度候只今は又何よりの品御送り被下ありがたく厚く御礼申上候

なほく時下柄皆さま御身おひとひなされ度候先は右まで 早々不一

整理番号 62

(ハガキ表)

消印 (推定・昭和) 3年1月1日

高知市北森町四丁目六番地

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

謹賀新年

併謝平素之疎遠

尚祈貴家之萬福

一月元旦

東京府下渋谷町長谷戸一番地

板垣銈太郎

外一同

東京江きてちよをだいなね私もあなたをすぎですよ

整理番号 63

(ハガキ表)

消印 5年1月1日

高知市北新町四ノ六

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

謹賀新年

昭和五年一月元旦

東京市牛込区若松町一〇五

板垣守正  
同 外子

整理番号 64

(ハガキ表)

消印 判読不能

土佐国土佐郡森村

河合(カキ)楠太郎様

(ハガキ裏)

謹賀新年

昭和五年一月十一日

東京市麻布区筭町百八十

板垣絹子

整理番号 65

(ハガキ表)

消印 判読不能 (推定・昭和) 年不明2月16日

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎様

東京府麻布筭町一四〇

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝啓御寒さの折から皆さま御変わりもなく何よりと存じ候次に当方一同ぶし御安心願上候さて只今は好物沢山に御送り被下有難く厚く御礼申上候

先は右御礼まで 早々不一

なほく時下柄皆さま御いとひなさいませ

二月十六日

整理番号 66

(ハガキ表)

消印 (推定・昭和) □年4月27日

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎様

(ハガキ裏)

拝啓時候不順之折から皆さま御ぶじに候や当方にも一同ぶじ乍□□御安心下度候扱て只今は何よりの好物□□〳〵御送り下され有難く厚く御礼申上候先ハ右取あへず御礼迄 早々不一

四月廿六日

東京麻布筭町一四〇  
板垣節子

整理番号 67

(封筒表)

消印 破損(推定・昭和5年) 3月26日

高知市北新町四丁目六番地

河井楠太郎様

(同裏)

東京麻布(筭町)一四〇

板垣節子

三月廿六日

(本文・破損あり)

□度は折角御上京なさいましたのに折あしく病人の為に何のおかまゐも出来ませず却ておつかい立□□□て失礼いたしました□□□中御ぶしに御帰宅の事と存じます

さて守正の学校の事はあなたが御立ちになつたあとでよく知りまして安心いたしましたあれは□□間□□□昨年拾弍月に仏語の試験も受けまして通りまして凡て無事に卒業いたしました次第ですから何卒貴君も御安心□□□ます様に尚弘田老□□に御会いの節は案外に好成绩で卒業いたしました事を御伝下さいます様に願います先ハ右まで

あら／＼かしこ

河井楠太郎様

節子

整理番号 68

(ハガキ表)

消印 (推定・昭和) 6年1月1日

高知県土佐郡森村

河井楠太郎殿

(ハガキ裏)

賀正

板垣守正  
外子

一月元旦

東京市牛込区若松町一〇五

整理番号 69

(ハガキ表)

消印 (推定・昭和) 6年3月23日

高知県土佐郡森村

川井楠太郎様

三月廿三日

東京市牛込区若松町一〇五

板垣守正

同 外子

(ハガキ裏)

大変よい時候になりました皆様御變りございませんか当方両親始め一同無事主人も元気で毎日活動いたして居ります御安心下さいませ本日は又結構な送り物頂戴仕り御厚意の程有りがたく御礼申しあげます

秋の県会の選挙には又帰国する事になりませう  
先づは右御禮まで

整理番号 70

(ハガキ表) (推定・昭和年不明8月8日)

消印判読不能

高知市北新町四丁目六番地

川井楠太郎様

麻布区筈町一八〇

板垣

八月八日

(ハガキ裏)

拝啓御暑さきびしき折から皆さま御無事何よりと存じ候次に当方一同ぶし  
(ぶじ)御休心下され度

候只今は又何よりの品御送り被下ありがたく厚く御礼申上候くださり

なほく時下柄皆さま御身おひとひなされ度候先は右まで 早々不一

整理番号 71

(ハガキ表)

消印 判読不能(推定・昭和7年3月23日)

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎様

東京市麻布区筈町一八〇

板垣絹子

(ハガキ裏)

拝呈

時下春暖之候皆様御一同には御変り無御座候や御伺申上候當家御後室には  
一昨年より病床となり目下も御全快之由も無く御座候へ共格別の御変り之  
無く候他事乍御休心被下度候本日は甚だ結構なる御品を御送り被下誠に難

有御禮申上候 敬具

三月二十三日

整理番号 72

(封筒表)

消印 (推定・昭和) 10年2月9日

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎様

(同裏)

二月八日

東京市麻布区新網町一ノ十五

板垣執事

(本文)

拝啓余寒未た難去候處高堂倍々御勇健奉大賀候降て当方後室も変り無之候  
間乍憚御安意被下度候扱て此度ハ心をこめられし御品御恵與被下御芳情難  
有御厚礼申上候後室よりも厚く御礼申上られ候間左様御諒承被下度先ハ不  
取敢右御礼旁々得貴意候 敬具

二月八日

川井楠太郎様

板垣執事

整理番号 73

(ハガキ表)

消印 (推定・昭和) 11年8月19日

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎様

東京市麻布区新網町

板垣絹子

八月十九日

(ハガキ裏)

前略御免被下度候

今日は御鄭重なる御書面並にお珍らしき数々の御品御送附したされ御厚志  
の程有難く御礼申上げ候

おみごとなる松魚節大好物のぜんまい早速食膳に供へ賞味致し居り候

申おくれましたが御家内皆々様には御壮健にて御消光の御事何よりと存じ  
上げ候いつも御無沙汰勝にて心にかけてつゝも失礼の程お詫び申上候当方も  
おかげ様にて皆々変りなく暮し居り候間憚りながら御放念被下度願上候

先は取急ぎ右御礼申上□□□□ 早々

整理番号 74

(封筒表)

消印 判読不能

高知県土佐郡森村相川

川井楠太郎様

(封筒裏)

正貫

(ハガキ裏)

故伯爵板垣退助妻絹子儀永々病氣之處養生不相叶四月十三日午後九時十五分逝去仕候間此段御通知申上候

追而告別式ハ四月十七日午後二時ヨリ三時迄芝区愛宕町青松寺ニ於テ挙行可致候

昭和十三年四月十四日

東京市麻布区新網町一ノ一五

孫 板垣 正貫

親族総代 浅野総一郎

整理番号 75

(弔電への礼状)

故伯爵板垣退助妻絹子逝去ノ際ハ早速御懇篤ナル御弔電ヲ忝ウシ洵ニ難有厚ク御禮申上候

昭和十三年四月

東京市麻布区新網町一ノ一五

孫 板垣 正貫

親族総代 浅野総一郎

整理番号 76

(葬儀礼状)

故伯爵板垣退助妻絹子逝去ノ際ハ早速御懇篤ナル御弔詞ヲ忝ウシ且ツ靈前へ御鄭重ナル御供物ヲ賜ハリ洵ニ難有厚ク御禮申上候

昭和十三年四月

東京市麻布区新網町一ノ一五

孫 板垣 正貫

親族総代 浅野総一郎

(くもんごう 自由民権運動研究者)